

TGR TEAM ZENT CERUMO

2023 AUTOBACS SUPER GT Report

SUZUKA GT 450km RACE

第5戦 鈴鹿サーキット

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月27日（日） RACE

決勝結果 6位

8月26日（土）に行われた公式予選では予選5番手と今季最上位グリッドを獲得し、決勝レースに向けて好位置につけたTGR TEAM ZENT CERUMOは、8月27日（日）の決勝日を迎えた。この日は朝方こそやや涼しさがあったものの、決勝レース前のウォームアップでは気温31度まで



上昇。午後2時45分にパレードラップが始まった決勝は、気温33度／路面温度50度という酷暑のなか熱戦の火ぶたが切って落とされた。

ZENT CERUMO GR Supraのスタートドライバーを務めたのは、これが最後の鈴鹿でのレースとなる立川祐路。オープニングラップをグリッドどおりの5番手で終えるが、後方からはかつてのチームメイトである平手晃平選手駆る#24 Z GT500が接近。序盤は2台のバトルとなり、さらにその前方を走る#64 NSX-GTを交え、僅差での4番手争いを展開していった。



今回の第5戦も450kmというレース距離で、2回の給油をともなうピットインが求められるが、この第5戦ではGT500クラスでも早めのピットインを行っていくチームが現れる。そんななか、立川は自らの最低義務周回数をこなすべく、コース上でバトルを展開しながら周回。11周目にGT300



TGR TEAM ZENT CERUMO

クラスのアクシデントで導入されたフルコースイエロー (FCY) の解除後には、15 周目の 1 コーナーで #64 NSX-GT をオーバーテイク。その時点で序盤トップだった車両がピットインしていたことから、立川は 3 番手に浮上。さらに前を行く #17 NSX-GT との差を縮めていった。



今季 SUPER GT では荒れた展開が多いが、今回は序盤の GT300 車両 1 台のストップをのぞくと大きなアクシデントはなく推移していった。立川はその後も酷暑のなか、最後の鈴鹿でのレースを噛みしめるかのようにステイントを進め、27 周を終えてピットイン。

石浦宏明に残り 50 周のステアリングを託した。

石浦がピットアウトすると、序盤早めにピットインしていたライバルたちが、短めのピットストップ、さらに空いたスペースを使いラップタイムを稼ぎ出すアンダーカットを成功させており、ZENT CERUMO GR Supra はポジションを下げて 10 番手。ただ、コクピットの石浦は好フィーリングを感じており、早々にピットインしていた #3 Z GT500 をかわすと、さらに前方を走る 5 番手争いの 4 台の集団に追いついていった。

ファンの注目を集めるバトルとなりそうな雰囲気もあったが、そのバトルに引かかってしまうと、タイムロスも大きい。そのため石浦はロスを避けるため、41 周でライバルたちよりも早めにピットインを行うことを決定。給油とタイヤ交換を実施した。

残り 35 周という長丁場の最終ステイントに臨んだ石浦だったが、早めのピットインが功を奏しポジションアップ。各車が 2 回目のピットインを終えると、#39 GR Supra、#17 NSX-GT、石浦、#14 GR Supra という 4 台の 3 番手争いに身を投じていくことになった。この時点で 5 番手で、これを勝ち抜けば 3 位表彰台も見えてくる。



TGR TEAM ZENT CERUMO

ただ、タイヤセット本数の関係から、このスティントで石浦が履いていたタイヤは、序盤履いていたタイヤとは異なるものだった。少しずつペースが苦しくなりはじめた57周目、日立 Astemo シケインで石浦は#14 GR Supra の先行を許してしまう。翌周、#17 NSX-GT がバトルのなかで GT300 車両と接触しポジションを落とすシーンもあったが、石浦はこれはかわせず。ジワジワと前方とのギャップは広がっていき、さらに後方から接近した#1 Z GT500 との戦いに巻き込まれていくことになった。



苦しい終盤戦となった石浦は、69周目に#1 Z GT500 にポジションを譲ることになってしまったが、その後はしっかりと耐え抜き、最後は7位でフィニッシュした。さらにレース後には2位だった#23 Z GT500 が失格となり、ZENT CERUMO GR Supra はひとつ繰り上がり、6位で夏の鈴鹿を終えることになった。

5番手スタートからの6位という結果はやや悔しさが残るが、それでも上位争いをしっかり戦い抜いてのもの。次戦の舞台は、立川にとって数多くの勝利の思い出が残っている宮城県のスポーツランド SUGO。残り3戦、TGR TEAM ZENT CERUMO は全力で勝利を掴みにいく。

ドライバー／立川祐路

「クルマのフィーリングも良かったですし、選んだタイヤもコンディションに合っていました。序盤から良い戦いができる感触がありましたし、序盤#64 NSX-GT を追い抜くのに手こずったものの、その後は#17 NSX-GT とのギャップを縮めることができましたと思います。やれるだけのことはやれたスティントでした。自分としても最後の鈴鹿でのレースでしたし、苦しいときに『最後の鈴鹿なんだ』と思うと、力が湧いてきて最後まで頑張ろうという気持ちになることができました。良い序盤のレースが戦えたと思います。結果としては後半少し苦しくなり6位という結果となりましたが、一時は表彰台が狙える可能性があっただけに残念ですね。でも戦えるポテンシャルは感じられましたし、次の SUGO も期待はできると思います。東北の皆さん、行きますよ！」



TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「立川選手の義務周回を終えてからピットインし僕に交代しましたが、戦略や給油量の違いで前にたくさんクルマが入っていた状態でした。こちらのペースが良かったのでその集団に詰まってしまったことから、早めのピットインを行うことにしましたが、第2スティントでフィーリングが良かったタイヤが最終スティントで使えず、うまくいかなかったところがありました。また少しアグレッシブにいきすぎてしまったのか、最後はペースを維持できなかったもので、少し悔しさが残るところです。巡り合わせがうまくいかなかったですね。また途中からペースが落ちてしまったところを改善しなければいけません。後続をうまく抑えきれなかったところも悔しいですね。とはいえ戦える感触が出てきているので、次戦 SUGO でも表彰台を狙い、予選からもっと前にいけるように頑張っていきたいと思います」



村田淳一監督

「結果的には6位ということで、好位置からスタートしたことを考えると、少し悔しい結果となりました。作戦としてはちょっと守りに入ったところがあったような感じもありましたし、周囲のターゲットとする車両を見つつ、最低周回数を考えながらのセオリーどおりのレースだったと思います。ペースとしては立川選手も石浦選手も悪くはなかったと思いますが、予想以上にショートスティントのアンダーカット組のペースが良く、我々はそこに捕まってしまったところがありました。我々の燃費に問題があるのかは分かりませんが、その点は今後の課題だと思います。もちろん来年も鈴鹿でのレースはありますし、今季もまだ450km レースがあります。まだ改善すべきところもありますし、GR Supra 勢のなかでのデータ共有もできているので、今後に活かしたいですね。終盤タイヤが厳しくなりましたが、それも原因をしっかりと探りたいと思います。とはいえ、戦えたレースだったと思います。次戦 SUGO は、サクセスウエイトを考えても勝つしかないと思っています」



TGR TEAM ZENT CERUMO



TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	16	ARTA MUGEN NSX-GT	77	
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	77	24.372
3	14	ENEOS X PRIME GR Supra	77	26.200
4	17	Astemo NSX-GT	77	26.825
5	1	MARELLI IMPUL Z	77	29.758
6	38	ZENT CERUMO GR Supra	77	40.231
7	100	STANLEY NSX-GT	77	42.979
8	64	Modulo NSX-GT	77	53.659
9	19	WedsSport ADVAN GR Supra	77	1'08.617
10	36	au TOM'S GR Supra	77	1'08.952
11	37	Deloitte TOM'S GR Supra	77	1'09.371
12	3	Niterra MOTUL Z	77	1'31.613
※1	13	24 REALIZE CORPORATION ADVAN Z	76	1Lap
※2	14	8 ARTA MUGEN NSX-GT	69	7Lap
※3		23 MOTUL AUTECH Z	失格	

※1 CarNo.24-ペナルティストップ 60 秒(SpR.付則-4-4.「FCY 中のピットイン」)

※2 CarNo.8-ペナルティストップ 60 秒(SpR.付則-4-4.「FCY 中のピットイン」)

※3 CarNo.23-失格(GT500 Technical Regulation.3.22.4.A「スキッドブロックの規定違反」)



TGR TEAM ZENT CERUMO

ポイントランキング

Rank	Car No.	CarName	Point
1	3	Nittera MOTUL Z	49
2	36	au TOM'S GR Supra	44
3	16	ARTA MUGEN NSX-GT	36
4	14	ENEOS X PRIME GR Supra	32
5	100	STANLEY NSX-GT	31
6	17	Astemo NSX-GT	29
7	23	MOTUL AUTECH Z	25
8	19	WedsSport ADVAN GR Supra	24
9	1	MARELLI IMPUL Z	24
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	23
11	64	Modulo NSX-GT	19
12	38	ZENT CERUMO GR Supra	18
13	8	ARTA MUGEN NSX-GT	11
14	37	Deloitte TOM'S GR Supra	8
15	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	6

